



01



ビジョン、レガシー及びコミュニケーション

オリンピックに更なる価値をもたらす強化するダイナミックな祭典

- ・ 東京の中心を舞台に革新性とインスピレーションを提示
- ・ 世界で最も先進的で安全な都市で行われる大会
- ・ 大会が持つ力と、世界的なトレンドを生み出す都市を結びつける
- ・ 東京の都市戦略と完全に一致
- ・ オリンピック・レガシー委員会など長期的な恩恵をもたらすための取組

1.1 貴都市がオリンピック競技大会を開催する主な動機は何ですか。また、2020年オリンピック競技大会に対する貴都市のビジョンはどのようなものですか。

動機とビジョン

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、世界で最も先進的で安全な都市の一つである東京の中心で、ダイナミックなスポーツの祭典とオリンピックの価値を提供する。

東京大会の基礎となるのは、
 ・高い質と最高の恩恵が保証される大会開催
 ・ダイナミックさと温かい歓迎で世界中の若い世代に感動を与える祭典
 ・日本が誇る創造力とテクノロジーを駆使し、スポーツとオリンピックに寄与する革新性である。

2020年東京大会を通じて、世界のスポーツ界が「未来をつかむ(Discover Tomorrow)」ことができる。

・東京大会は、革新性とインスピレーションを結び付け、オリンピックの価値、スポーツや、オリンピック・ムーブメントがもたらす広範な恩恵とレガシーを示すものとなる。
 ・私たちは、大会が持つ力を、日本人が持つ独自の文化や資質、そしてグローバルなトレンドを生み出す都市の興奮に結びつける。
 ・私たちは、記憶に残るダイナミックな大会を開催し、新しい世代のために、オリンピック・パラリンピックの価値を強化し、世界中のより多くの若者が夢と希望とスポーツの恩恵を分かち合えるよう支援していく。

私たちは、オリンピック・ムーブメントの影響力と、スポーツの持つ癒し、団結させ、鼓舞する力、東京が誇る革新性と運営面での効率性を結びつけ、東京、日本、そしてスポーツのために永続的なレガシーを提供することに情熱を傾けていく。

東京は、卓越、友情、尊敬という基本的価値をオリンピック・ムーブメントと共有する都市である。私たち日本人は2011年3月の東日本大震災に直面し、これらの価値観や、尊厳、規律、フェアプレーといった資質を示してきた。2020年東京大会はこうした価値観や資質を受け入れるとともに、一層高め推進するものになる。

私たちのビジョンは、以下に示す5つの重要な目的に基づいている。

1) 日本国内外においてオリンピックに更なる価値をもたらし強化する。

日本には、1世紀以上にわたって多大な影響を及ぼしてきた、長く輝かしいオリンピックの伝統と歴史がある。

日本代表が初めて競技に参加したのは1912年のストックホルム大会である。1930年、近代オリンピック・ムーブメントの祖であるピエール・ド・クーベルタン男爵は次のように記している。「昨年ジュネーブで、日本代表の1人が国際連盟で私に「オリンピック大会の復活が我が国をどれほど変えたかを想像するのは不可能です。大会に参加してから、日本の若者は生まれ変わったようになっています…」と語った。」

1964年東京オリンピック大会は日本および世界にとって時代を画すものであり、日本の経済発展と社会再建のきっかけとなった。また、国民が誇りを持ち、団結し、自信を持つターニングポイントとなった。昨夏の2012年ロンドン大会は、主要な成熟都市が非常に大きなブラ

スの世界的影響力を今でも有することを証明した。2020年東京大会もまた、オリンピックに向けた共通のビジョンのもとに団結し、確立されたインフラ、情熱的であると同時に礼儀正しい観客、安定した社会から生まれるあらゆる恩恵を示すことになるだろう。

2)十分に計画された安全な大会の開催

2020年東京大会は、優れた大会の開催を可能にする最強のプラットフォームを提供し、7年間にわたる綿密な計画、整備、開催を確実なものとする。

日本の経済力、成熟した民主主義と政治的安定は、大会開催に磐石な基礎を与える。

東京が誇る優れた技術と運営力に加え、コンパクトな会場計画や効率的な輸送計画及び宿泊計画により、2020年東京大会はオリンピック・ムーブメントにとって非常にリスクの低いものとなる。

日本は市民の調和を保つ国民性を持ち、犯罪率が非常に低い世界で最も安全な国の一つである。これに加え、充実した大会のセキュリティ計画により、2020年東京大会は安全性の高い祭典となる。

2012年ロンドン大会のように、2020年東京大会は、真のグローバルシティが大会の基盤的部分を早期に整備することで、更なる付加的要素に焦点をあてることのできる。更には、開催都市決定からパラリンピック閉会式およびそれ以降の長きにわたり、大会を祝福し、オリンピック・ムーブメントを促進する素晴らしい模範となる。

3)都市の中心で開催されるダイナミックな祭典に世界を歓迎

2020年東京大会は、東京の新しく再生された中心部で開催され、都市活動を妨げることなく地域社会に大会を浸透させ、巻き込んでいく。

大会の中心となる選手村は、21の競技会場と祝祭の会場とともに、新たに再生された東京臨海部に設置される。東京圏の33競技会場のうち28会場は、選手村から半径8km圏内に設置される。非常にコンパクトな会場計画、高速かつ効率的な公共交通機関、近接した利便性の高い宿泊施設は、大会と都市を一つに結び付けつつ、選手の移動時間を最小限に抑える。

私たちは、2020年東京大会を通じて、「オリンピック・コミュニティ」の概念を発展させていきたいと考えている。その概念の核となる要素は次の3点である。

第一に、非常にコンパクトな開催計画によって、都市の中心に大会のスポーツと精神がもたらされ、大会のユニークな雰囲気が盛り上がる。東京の中心で行われる競技やフェスティバル(文化プログラム、ライブサイト、ファントレイルなど)を通じ、オリンピック・ムーブメントと2020年東京大会、東京のコミュニティが完全に一体となり、永遠に記憶に残るイベントを楽しむことができる。

第二に、こうした直接的な関与と経験、教育・啓発プログラムを通して、2020年東京大会はオリンピックの重要な価値を、さらに社会に浸透させていく。

第三に、東京の人々に一連の社会的で健康的なレガシーをもたらし、物理的レガシーとして、身近な会場や改善された施設ができ、スポーツやレクリエーションへの参加を容易にし、促進する。

4)友情と相互理解を促進

日本の文化と伝統はユニークであり、数え切れないほどの世界中の芸術のスタイルや手法に影響を与えている。東京は、古い神社、庭園から電気街における興奮に至るまで、伝統的な習慣や尊敬がイノベーションやハイテク技術と融合した類まれな都市である。

2020年東京大会では、スポーツを通じて日本と世界が新たな関係を構築し強化するだろう。東洋と西洋が融合し、若いも若きもともに過去と現代を共有し楽しむ。2020年東京大会では、そんな発見や再発見が見られるだろう。

5)急速に変化する世界の中にあってオリンピズムを保ち続ける

東京と日本はイノベーションの世界的中心として知られている。直近の世界経済フォーラム国際競争力レポートでは、日本は「イノベーションの能力」で第一位にランクした。2020年には、この素晴らしいイノベーションを、大会、オリンピック・ムーブメント、そしてスポーツのために活用していく。私たちは、技術的な先見性や理解を活用し、IOCやIPCとパートナーとして連携して、私たちの誇る技術を使ってスポーツやレクリエーションへの参加を促していく。

1.2 オリンピック競技大会についてのビジョンが、いかに貴都市／地域の長期的な戦略計画に即したものであるかを説明してください。

都市の発展との完全な統合

2020年オリンピック・パラリンピック競技大会のビジョンは、2011年に東京都によって策定された、新たな長期都市戦略である「2020年の東京」と完全に一致している。「2020年の東京」は、2016年大会招致の際に策定された「10年後の東京」を、充実・強化したものである。都市の長期戦略はオリンピック大会の開催ビジョンと一体となって進められている。

「2020年の東京」は、「誰もがスポーツに親しむことのできる社会を創る」という目標を掲げている。そこに掲げられた施策を通じて、各種の施設やアスリートの活躍によりコミュニティ、特に次世代を元気づけ、スポーツの力によって人々が健康でスポーツとともに生きることができると活力あるまちをつくり上げていく。このことは、私たちが目指す2020年東京大会のビジョンと一致している。

また、東京都は2010年に、だれでも、いつでも、どこでもスポーツを楽しむことができる「スポーツ都市東京」の創出を目指して、スポーツ振興局を設立した。

2020年東京大会は、包括的な長期の都市及びスポーツ戦略と密接に関連した大会計画やレガシーについて新鮮で新たなベンチマークを提供する。

1.3 招致活動の結果に関わらず、オリンピック競技大会招致が貴都市／地域にもたらす恩恵はどのようなものですか（社会基盤の整備計画、スポーツの実践、青少年のためのプログラムなど）

招致の恩恵

東京はすでに、2016年招致同様、2020年東京オリンピック招致の恩恵を受けている。

2020年招致は、すでに実施されている2016年招致時の重要な施策を基礎としている。これには、海の森の20ha（2012年10月末時点）にわたる植樹、その他の緑化プロジェクト、新しい道路インフラ、嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センターの設置が含まれる。

2020年大会招致による、重要な競技会場やインフラ、組織のレガシーは以下のとおりである。

- ・国立霞ヶ丘競技場:1964年オリンピックスタジアムの場所にテストイベントが行われる2019年までに建設され、その規模では世界でも最新鋭のスタジアムになる予定。
- ・2020年東京大会の競技会場となるオリンピック・スタジアム・パーク地区、お台場地区、及び武蔵野の森地区を含むスポーツクラスター。
- ・東京のアスリートが、自らの成果を地域スポーツへ還元する「東京アスリート・サイクル」を形成
- ・障害者のスポーツ参加の増加を目指す新しいプログラム

2011年に発生した東日本大震災後、2020年招致は人々に希望を生み出し、励まし、困難に打ち勝って、明るい未来に向けて前進するよう人々や国家を鼓舞するスポーツとオリンピック・ムーブメントの力を示している。

1.4 オリンピックの主要なレガシーの計画はどのようなものか。またそれがいかに貴都市／地域の長期的な計画や目標に結びついているか詳細を説明してください。

重要なオリンピック・レガシー

包括的な一連の物理的、社会的、環境、国際的なオリンピック・レガシーの取組が、2020年大会の東京開催から生まれる。

オリンピック・レガシー委員会

2020年東京大会のレガシー計画の不可欠な要素として、オリンピック・レガシー委員会の創設がある。

この委員会は東京の物理的レガシーの構築、提供、継続的な使用を指導・調整するだけでなく、2020年東京大会における地域や国内外の「ソフト」レガシー、すなわちスポーツ、教育、社会政策、環境などに関するレガシーすべてについて評価と助言を行う。

物理的レガシー：東京の新しい中心の再活性化

東京の新しい長期計画と完全に一致して、2020年東京大会は東京に有益な物理的レガシーを残す。

2020年東京大会は、新設または改修された競技やエンターテインメントのための会場や施設、新たな緑地を地域にとって重要なポジティブなレガシーとして提供する。それらのレガシーには次のものが含まれる。

- ・2020年東京大会に向けて国立霞ヶ丘競技場、海の森水上競技場、夢の島ユース・プラザ・アリーナA及びB、オリンピックアクアティクスセンターなど、11の恒久会場が整備される。
- ・国立代々木競技場、東京体育館、日本武道館など、1964年オリンピック大会時の施設を含む15の主要コミュニティ・スポーツ施設が改修される。

2020年東京大会の競技会場のうち、21会場は東京の新しい中心となる再生された東京ベイエリアに設置され、主要スポーツエンターテインメント・イベント用の新しい施設とともにレジャーエリアを備える。

新たに建設される2020年大会の選手村の一部は、大会後、国際交流研究、イベント、共同プロジェクトのためのハブの役割を果たす国際交流プラザとなり、ここには国内外の文化、スポーツ、教育関連の機関が拠点を置くことが検討されている。

また、重要な国際的レガシーとして、東京にイベント及びスポーツ技術・科学機関を創設することが検討されている。この機関は国際交流プラザに拠点を構える可能性がある。同機関はスポーツやイベントのプレゼンテーション、会場、レガシーの国際的な研究ユニットとなり、オリンピック・ムーブメントやスポーツとイベント・セクターが常に変化を続ける技術や持続可能性の要請に遅れをとらないための一助となる。

重要な社会的及び環境関連の持続可能なレガシー

オリンピック・ムーブメント、2020年東京大会のすべての面（会場、イベント、運営、教育プログラム、祝祭）は、東京のコミュニティとともに、2020年大会の社会的で持続可能なレガシーが社会全体に浸透するよう、一体となって協力していく。

ISO20121イベント・サステナビリティ・マネジメント・システム認証に沿って、2020年東京大会は、持続可能な社会、環境、経済に関する新しい基準を遵守していく。

2020年までに、東京に433haの新たな緑地を創出するとともに、街路樹100万本の植樹を通して「グリーンロード・ネットワーク」を構築する。また、東京臨海部に沿って新しいコミュニティ・スペースを整備する。

1.5 貴都市／地域におけるスポーツへのレガシーは何ですか。オリンピックと競技、とりわけ貴国で競技人口の少ない競技の振興と発展を図るために、貴都市がオリンピック競技大会の準備段階で行う予定の取組について述べてください。

スポーツのレガシー及び推進

2020年東京大会は物理的な一連のインフラ、スポーツにかかる健康面と社会的レガシーを東京及び日本、そして他国に生み出していく。（1.4も参照のこと）

国際スポーツ振興プログラム（1.6を参照のこと）の作成に加え、新設される競技会場は、大会後、地域社会の中に完全に統合され、人々に身近でスポーツを楽しむ機会を提供する。また、日本全国で行われる主要な大会前・大会後のスポーツ/体育及び認識向上プログラムやロールモデルとしてのオリンピアンとの関わりにより、体を動かすことのような恩恵に関する知識が社会に浸透するとともに、特に若者の間で健康的なライフスタイルが促進される。

アンチ・ドーピング教育やスポーツ心理学分野の研究機関と連携することで、アスリートへの医療的・科学的支援を拡大する。

地域レベルにおいて、2020年東京大会はスポーツクラブの活動を推進し拡大させる。

オリンピック競技の振興

主として東京における会場及び施設の新設と改修、ならびに東京都、JOC及び他のスポーツ団体による、特に若者向けの、オリンピック競技に関する主な地域スポーツ教育及び参加プログラムにより、2020年東京大会を通じてオリンピック競技を振興し、発展させていく。

包括的なスポーツ振興コミュニティ・プログラムの一環として行われる主なスポーツ振興及び参加プログラムの一つは、若手の選手がエリート選手のレベルに到達できるよう支援することを目的として、7つのオリンピック競技（アーチェリー、ボクシング、カヌー、自転車、ボート、ウエイトリフティング、レスリング）に焦点を当てている。このプログラムには、こうした競技における新たな才能の発掘と支援策が含まれる。

国レベルでは、2011年にスポーツ基本法が制定され、その中で国民の福祉のためにスポーツを振興する日本政府の責任が宣言されている。

1.6 貴都市でオリンピック競技大会を開催することによって、どのような形でオリンピック・ムーブメントに寄与できますか。

オリンピック・ムーブメントへの貢献

革新と鼓舞—東京の信頼性

2020年東京大会は、そのコンセプトと精神、卓越した運営、東京都や国内外のスポーツ及び教育プログラムを通じて、さまざまな方法でオリンピック・ムーブメントに貢献していく。

2020年東京大会は、オリンピックの価値、スポーツや施設、精神を東京の中心に据えることで、地域にこれらの価値を深く浸透させていき、オリンピック・ムーブメントとその発展に大きく貢献する。

嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センターは、スポーツと国際スポーツ交流の奨励を通して若者を教育することによって、オリンピズムの推進に貢献する。

アンチ・ドーピング教育は、日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が中心となり、スポーツ機関、教育・研究機関の協力によって強化される。特にフェアプレー精神の特別プログラムは発展・実施される。

私たちは、2020年大会の東京開催を記念し、IOCとの連携のもとで、オリンピック・ミュージアムを設立して、オリンピック・ムーブメントの発展に貢献していくという構想を持っている。

私たちは、IOCが実施している「スポーツ・フォア・オール」やIOCと国際連合の連携のもと実施されている国際的な取組を全面的にサポートし、IOCやIPCと緊密に連携して、2012年ロンドン大会の「インターナショナル・インスピレーション」プログラムや2016年リオ大会のプログラムを足がかりに、新しく更に充実したスポーツプログラムを開発していく。

1.7 また、パラリンピック競技大会を開催することによって、貴都市のビジョンやレガシー全般にどのような形で寄与できるのかについても述べてください。

パラリンピック大会のビジョンとレガシー

東京は、既に障害者スポーツの振興に積極的に取り組んでおり、2020年東京パラリンピック競技大会の開催は、これらの取組を一層加速させる。また現在、スポーツ基本法の考え方は、2012年3月に策定された東京都の「障害者スポーツ振興計画」に取り入れられている。

大会組織委員会は、障害を持つ子供及びその両親を対象に、スポーツイベントやワークショップを開催し、人生の早い段階からスポーツの選択や機会に触れる機会を提供する。

私たちは、パラリンピック大会において、観客を惹きつけ、成功をもたらした2012年ロンドン大会に学び、2013年から2020年東京大会、さらに開催後もパラリンピック大会に関する教育プログラムを導入する。

2020年東京大会は、ユニバーサルデザインの考え方に基づくまちづくりを促進するきっかけとなり、ノンステップバスの導入や、駅や公共施設、病院を結ぶ道路のバリアフリー化、スポーツやイベント会場、その他のインフラに関する新たな同様のバリアフリーの基準の導入などをもたらすことになる。

Q9.1「パラリンピック大会」を参照のこと。

1.8 コミュニケーション・プログラム
貴都市のコミュニケーション・プログラムについて述べてください。国内で支援と関心を高める取組はどのようなものですか。また、海外に向けた取組はどのようなものですか。

2020年東京大会のコミュニケーション・プログラムは、コミュニティの関与を最大限に引き出し、オリンピック・ムーブメントの価値を普及させ、スポーツの力を示すことに焦点を当てる。2020年東京大会は、「Discover Tomorrow」のメッセージを中心に展開され、大会組織委員会は、大会に関するコミュニケーションにおいて一貫性を維持するためにこのプラットフォームを最大限に統合する。

絶え間なく変化する情報のグローバル化の中で、国内外向けのコミュニケーションは単一の明確なプログラムに統合され、5つの主要フェーズに分けて大会までの気運を盛り上げていく。(コミュニケーションプランはQ1.10を参照のこと)

2020年東京大会のコミュニケーション・プログラムは、オンライン／電子コミュニケーションやデジタル・メディアに重きをおき、日本の優れたITを使い、様々なコミュニケーション・チャンネルや手段を活用して実施される。さらにこのプログラムは、大会の文化・教育の取組や、都市活動を活用し、直接大人も子供も巻き込んでいく。その一例は「1校1NOC運動」プログラムである。(Q2.7を参照のこと)

2020年東京大会はまた、コミュニケーションの範囲を最大限拡大できるようにIOCと緊密な連携をとり、TOPパートナー、ローカル・パートナー、メディア・ライツ・ホルダーなど他の関係者やオリンピック・ファミリーのメンバー、各国政府や機関が提供する資源を活用する。

1.9 コミュニケーションの機会とチャレンジ
組織委員会を見据えた貴都市のコミュニケーション面での課題と機会は何か記述してください。圧力グループ及びNGOに対応する際の貴都市の戦略を述べてください。

コミュニケーションの機会とチャレンジ

私たちは、大会に関するコミュニケーションの複雑性を十分に理解している。しかし、現時点において、2020年東京大会についてはコミュニケーションに関する大きな課題は見られない。

NGOや圧力団体に関して特に問題は見られない。日本には歴史的に協調の文化があり、様々な問題についてNGOと建設的な関係が保たれてきた。大会組織委員会とパートナーは、公式・非公式な媒体を活用し、特定の問題に関して積極的に前向きなメッセージを広く発信していくことで、NGOとの良好な関係を構築していく。

重要なコミュニケーションの機会には以下のものが含まれる。

- ・日本固有の文化・伝統
- ・特にITや通信技術という、オリンピックの価値を普及させ、世界中の若者層に伝える新しい手段を提供する2分野における名高いイノベーションの力
- ・大会の主要イベントにおけるストーリー提供
- ・多くの主要イベントの開催(例：2019年のラグビーワールドカップ大会)

1.10 コミュニケーションに係る全体計画について、その時期と予算を含めて示してください。

コミュニケーションの予算総額は、9.2億円(10.5百万米ドル)である。

下表は、展開・実施される主なコミュニケーション活動を要約したものである。

フェーズ	項目	主体
2013~2015 国内外の関心喚起	公式ウェブサイト及びソーシャル・メディア・キャンペーンの開始	大会組織委員会
	2014年南京ユース大会、2018年平昌大会と連携したアジアにおけるコミュニケーション・プログラム開始	大会組織委員会及び関係機関
	ロゴデザイン及び大会ビジュアルの選定	大会組織委員会
2016~2017 人々の関与 (例：ボランティアプログラム)	ボランティアの採用及びトレーニングプログラム開始	大会組織委員会
	インターナショナル・コミュニケーション・プログラム(アジア以外)展開	大会組織委員会
	2016リオ大会の推進及び大会後の活動(例：オリンピック旗・パラリンピック旗の到着)	大会組織委員会
	文化・教育プログラムの紹介及び開始	大会組織委員会、都、関係機関
2018~2019 人々の参加 (チケットの 販売促進、 観客席を満員に)	開催1,000日前イベント	大会組織委員会
	ピクトグラム、マスコット、メダル、コイン、大会ユニホームなどの大会の様々なエンブレムやシンボルのPR	大会組織委員会
	チケットの販売促進キャンペーンの開始	大会組織委員会
	新国立競技場のPR	大会組織委員会、政府、関係機関
	ライセンス・プログラムのPR開始	大会組織委員会
	2018年平昌大会期間中・前後のPR	大会組織委員会
2019~2020 最大の歓喜 (大会時に 国内外で頂点に)	テストイベントのPR	大会組織委員会
	開催1年前イベント	大会組織委員会
	聖火リレーの開始及びPR	大会組織委員会
	大会のルック、シティドレッシング及びライブサイト計画等の活動のPR	大会組織委員会、都、その他の地方自治体
	ライブサイトや大会中の文化プログラムを含めた都市活動の開始	都
2020~ 大会後のPR	応援・盛り上げイベント	大会組織委員会
	大会期間中のコミュニケーション・プログラム開始	大会組織委員会、IOC
	関係者(特にボランティア)及び参加者への感謝	大会組織委員会
	大会の影響及びレガシーを伝える	全関係者